



新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年をお迎えのことと、こころよりお喜び申し上げます。

今年、当院は開院30周年を迎え大きな節目の年になります。

平成1年3月20日に勝田市（現ひたちなか市）市毛十文字に開院したときは、医師一人と看護師、事務職員等わずか10人でした。現在は医師6人、看護師18人を含め50人を超える有床診療所となりました。

これもひとえに地域の皆様のご支援の賜物と感謝いたしております。

平成11年には現在の津田に新築移転しました。ひたちなか市でも奥まったところへの移転で、バスなど交通の便が悪くなりご不便をおかけしましたが、多くの皆様に変わらず支えていただき現在に至っております。

平成19年には増築して、MRI装置を整備しさらに通所リハビリテーション施設「すだち」を開設しました。開院時から支えてくださった患者さんが高齢になり通院が困難になったとの事を聞き、送迎のできる通所介護施設として開設しました。少しでも長く自立した生活を送ることができるようにお手伝いしております。おかげさまで利用者の皆様には好評を得ているようです。

さて、超高齢社会を向かえ日本の医療提供体制は大きな転換を余儀なくされています。入院医療施設は、高度急性期、急性期、回復期、慢性期機能の4機能に区別されます。

当院は開設以来、積極的に手術的治療を行なう医療施設として活動してきました。

昨年の実績は、膝前十字靭帯再建術、人工膝関節置換術及び人工股関節置換術、膝半月板手術、脊椎手術、足の手術など全身麻酔による手術を415例行ないました。今後も急性期機能の有床診療所として地域に貢献していく所存です。

年間国民医療費が41兆円を超え、医療財源の確保が課題になっています。国民皆保険を守るためには自己負担を年齢によって区別するのではなく、負担能力に応じたものに変更することも必要と思われれます。

地域包括ケアシステムの構築も医療費と介護費を削減することが背景にあります。

今までは、病院は入院すれば社会復帰ができるまで面倒を見る「とことん型医療」をしてきました。しかし、これからは急性期を脱したら在宅でみる「ほどほど型医療」を余儀なくされています。

地域包括ケアシステムは、医師、看護師を核とした多職種が連携して、住い、医療、介護、予防、生活支援を一体的に提供することで地域全体で高齢患者を見ていくシステムです。現在、各市町村で構築に向けて作業が進んでいますが、高齢者に対する虐待が毎日のように報道される現実を考えると本当に実現できるのか不安な面もあります。

介護者だけに任せきりにしないで、地域全体でかかわることが大事です。大変厳しい状況になっていますが国民一人ひとりが医療介護について、今後どのようにすべきか考えていかなければなりません。

最後になりますが、テレビなどで宣伝している「グルコサミンやコンドロイチン」は膝の痛みに効果がありますかと聞かれます。

はっきり言います。まったく効果がないというのが最近の研究結果です。大手の製薬会社も宣伝していますが、私は高齢者をだます「二セ電話詐欺」と同じようなものと思っています。

先日は、「グルコサミンではありません。コラーゲンなのです」というコマーシャルを見ました。高齢者を食べ物にしているのです。

有名人がどんなにテレビで宣伝しても効果がないものは利きません。いわゆるサプリメントや健康補助食品はまず、疑ってかかりましょう。

理事長 小松 満



新年、あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年是小松整形外科医院 創立30周年を迎えます。

早いもので、私も入職して17年がたちました。17年間の中で、多くの患者さんとの出会いがありました。この出会いの中で、あたたかい言葉をかけて頂いたこと、たくさんのお話を聞かせて頂いたことなどが、昨日のここのように思い出され、感謝の気持ちでいっぱいです。その中で大切なことに気付いたり、学ばせていただいたこともあり、これらひとつひとつを糧として今後の看護に繋げていきたいと思っています。

私は“相手の立場になって考える”をモットーとしております。これからも皆様の立場に立ち、より良い看護を提供していけるよう、日々努力してまいりたいと思います。

本年も小松整形外科医院をよろしくお願い致します。

看護師長 志賀 衣里子





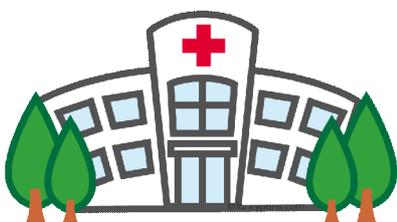
新年明けましておめでとうございます。

平素より当院をご利用いただき、ありがとうございます。
本年も皆さまのお役に立てるよう職員一同努力してまいります
のでよろしくお願い申し上げます。



国際社会の情勢は、宗教戦争にも発展しかねないイスラエルのアメリカ大使館の問題や北朝鮮の核開発など世界平和とは程遠い状況です。それらと比べると、本当に日本は平和な国です。大震災・水害など自然災害による不幸はありましたが、穏やかで勤勉な我々日本人はそれらの不幸を乗り越えてきました。唯一の被爆国である日本は、原爆を投下したアメリカとは親密な友好国となり、アメリカ人を罵倒するようなことはありません。もちろん戦争や核爆弾などの殺戮兵器の根絶を望んでいますが、罪を憎んで人を憎まずの精神は日本人の根幹となっているように思います。過ちを認めて謝罪すれば、私たちは相手を許すでしょう。何回謝っても相手を許さないお隣りの国民との違いは、どこからくるのでしょうか。島国で侵略されたことがない、狭い国土で仲良く暮らす単一民族だからでしょうか。敗戦のどん底からつらい思いで現在まで復興を遂げたのは、私たちの親や祖父母の世代の方たちの努力のおかげです。戦争を起こし敗戦し世界から日本が非難された時期があり日本人は誇りと自信を失いかけた時期がありましたが、大震災などの災害時の我々日本人の対応は国際社会では理想的な模範として高く評価されているそうです。災害時に海外では必ず見られる略奪・暴力が起こらない（一部では空き巣や盗難はありましたが）。悲惨な現実には泣きわめいたりせず、静かに悲しみに耐えている態度。水や食物の配給で長時間待たされても、騒いだり文句を言うこともなく整然と並んで待っている。お店で飲食物などを購入する時も、後の人のことを考えて買い占めたりしない。人種差別もない。日本にいては当たり前のことですが、世界からは考えられないような模範的な行動として賞賛されています。国連に多額の出資をしても常任理事国になれない日本ですが、我々に代々引き継がれている世界に誇れる日本人の気質・精神を誇りにし大事にしたいと新年に思いました。

医療とは関係のないお話しで、恐縮です。いつも診察の際は長時間お待たせして申し訳ございませんが、せっかく当院を受診していただいた皆様には診断と治療に納得していただけますように努力を続けてまいります。今後とも、小松整形外科をよろしくお願い申し上げます。



院長 中島 宏



2017年 年間手術件数について



2017年1月から12月までの全身麻酔手術件数は 415件で、主な手術の内訳は、
脊椎手術：52件、股関節手術：36件、膝関節手術：255件、足関節・足部手術：43件、肩関節手術：10件となっております。

① 脊椎手術

頸椎椎弓拡大形成術：頸椎症性脊髄症・頸椎椎間板ヘルニアなどによる頸髄の圧迫取り除き、痛み、しびれを改善させます。

腰椎椎弓形成・切除術：腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなどによる腰部の脊髄・神経の圧迫を取り除き、痛み、しびれを改善させます。

② 股関節手術

人工股関節置換術：変形性股関節症、関節リウマチなどによる股関節の痛みに対して、人工股関節を設置し、痛みを取り除き、機能を回復させます。

③ 膝関節手術

人工膝関節置換術：変形性膝関節症、関節リウマチ、骨壊死などによる膝の痛みに対して、人工膝関節を設置し、痛みを取り除き、機能を回復させます。

前十字靭帯再建術：主にスポーツが原因で断裂した前十字靭帯を再建し、安定した膝にします。

半月板手術：膝のクッションになっている半月板を修復または部分切除します。

④ 足関節・足部手術

靭帯再建・縫合術：足首の断裂した靭帯を修復または再建し、安定化させます。

外反母趾手術：母趾の変形を矯正し、痛みを取り除きます。

脛骨骨切り術、関節固定術：足関節の変形を矯正し、痛みを取り除きます。

⑤ 肩関節手術

腱板修復術：断裂した腱板を関節鏡視下に修復し、肩の痛みと機能を回復させます。

肩関節脱臼手術：肩がはずれないように、肩関節を制動、安定化させます。

以上、当院での手術件数と、主な手術の内容を簡単に紹介させていただきました。

患者さん一人ひとりがどういう治療を選択すべきかは、担当医が十分な説明を行ない、患者さんとともに最良の治療法を決定していきます。



副院長 星 忠行



トイレの男女識別標示のあれこれ

不特定多数の人が利用するトイレには必ず男性用、女性用を区別する標示があります。

(図1) は当院の標示です。

ピクトグラムといわれる絵文字です。

ピクトグラム (絵文字) の多くは、日本で編み出されました。



図1

1964年東京オリンピックで来日する外国人のために考案され、体系的に整備され世界に広がりました。

日本では家紋の文化と知性があったからといわれています。



図2

東京オリンピックの時に使われたトイレのピクトグラム (図2) は、今ではなかなか見ることができません。

(図2) は花巻市にある宮沢賢治記念館のトイレの標示です。まさに東京オリンピックの時のピクトグラムです。2015年に大学のクラス会で訪れたとき見つけました。初めて見ることができました。

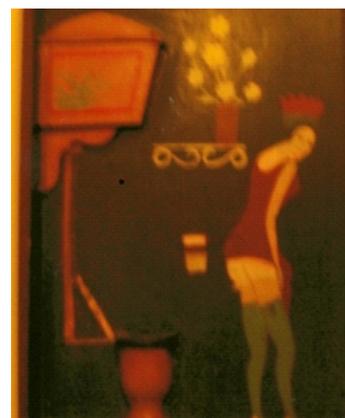
2006年にイタリアに旅行しました。ロミオとジュリエットの舞台となったヴェローナに行った時のことです。古代の円形競技場前の広場でトイレ休憩になりました。ところが公衆トイレが工事中で使用禁止になっていました。

イタリアでは公衆トイレが少ないので、一般的にBAR (バル) という軽食喫茶店でトイレを借りることが普通とのことです。広場の周囲には多くのバルが並んでいました。そのうちの一つに偶然入り、トイレを借りました。トイレの前に立って目に入ったのが、男性が便器の前に立ち、小用をしている最中の絵でした。思わず後ろを見ると、帽子をかぶった貴婦人? がまさにズロースを下げようとしているではありませんか (図3)。

トイレ標示を収集するきっかけになった記念すべき一枚です。



図3



(図4) は収集した中で最も豪華な標示です。男性用は王冠、女性用は冠。車いす用とトイレの中です。黄金のヨハンストラース像で有名なウィーン市立公園の片隅にあるレストラン シュタイラーレックです。



図4

(図5) は極めて日本的な美しい標示です。男性用に兜、女性用に七夕飾りです。仙台駅のコンコースで仙石線ホーム近くにあるトイレです。この飾り物は入口を少し入った所にあつたので女性用の撮影に苦労しました。

出入りが少ない時は良いのですが、そうでないときは苦労します。妻と一緒にいるときはまだよいのですが一人の時は知らない女性に頼まなければならないときもあります。



図5

(図6) 王様とお妃の人形で。ウィーンのシーフードレストラン フンマーバー ケルバンサライです。自分で魚を選び調理してもらうシステムでした。



図6

(図7) 有田焼 柿右衛門窯のトイレです。磁器の皿に男女を帽子で区別しています。焼き物で標示しているところは結構あります。

男女を区別するための色彩では男性は青系統、女性は赤系統が多いようです。性差別反対派は男女の色を決めつけるなどいいますが、これは性差別ではなく分かりやすさを求めているからでしょう。



図7